



# みなみすな

## MINAMISUNA

〒190-0003 立川市栄町 2-2-1 TEL042-525-1474 FAX042-529-0940

令和7年3月24日  
学校だより3月最終号  
立川市立南砂小学校  
校長 國長 泰彦

### 「考える子」

校長 國長 泰彦

春の暖かさとともに桜のつぼみが少し膨らみ始めました、本日、令和6年度の修了式を無事に終えることができました。そしていよいよ、明日、6年生54名が南砂小学校を巣立っていきます。学校のリーダーとしていつも下級生の手本となっていた6年生、南砂小学校で身に付けた力をさらに中学校で伸ばし、新たな目標を掲げて飛躍してほしいと願います。

6年生が学習してきた国語の教科書に、『『考える』とは』というテーマで、何人かの筆者が書いた短い文章があります。その中の中満 泉さんの文章にも紹介されている言葉ですが、哲学者パスカルは、「人間は考える葦(あし)である。」という言葉を残しています。

「人間は自然の中でもっとも弱い、一本の葦にすぎない。だがそれは、考える葦である。」

パスカル『パンセ』より

人間は、水辺に生える細い葦のように非力な存在だけれども、考えることによって大きな存在にもなれる。よりよい世界を築くには、人間が弱い立場の人に心を寄せること、そして、何が大切なのか、何が正しいのか、どういう未来にしたいのかを考え、行動することが重要であると筆者は捉えています。

ここで、テレビアニメの話を紹介して大変恐縮ですが、前回のサッカーワールドカップの頃に放送されていたサッカーアニメに『アオアシ』というものがあります。この作中にも「考える葦である。」という言葉が出てきます。主人公の葦人(あしと)は、ユースサッカーの監督やコーチらに、常に考えることを求められ、考え、必死に練習することによって、局面、局面の判断力だけでなく、精神面や技能も飛躍的に力を高めていきます。考え、行動することによって、様々な力を伸ばしていくのです。学校での学びも、自分で考えて、「自分でつかんだ答えなら、一生忘れない。」学びにつながるものがあればよいなあと思います。そして、卒業する皆さんにも、「考える子」であり続けてほしいと思います。

保護者・地域の皆様には、学校教育へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。お子様への日々の声掛けや健康管理、また、学校行事への参加やアンケートへのご協力に、厚く感謝申し上げます。

令和6年度を終えるにあたり、次年度に向けてしっかりと準備を進め、新体制で教育活動を展開していきます。『全ての子どもたちの輝く未来を応援する学校を目指して』子どもたちのために全教職員で努めて参ります。